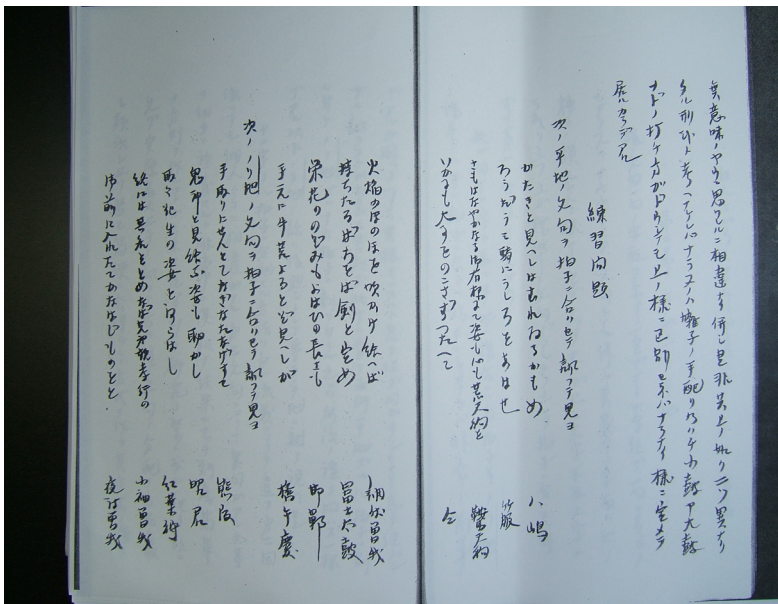
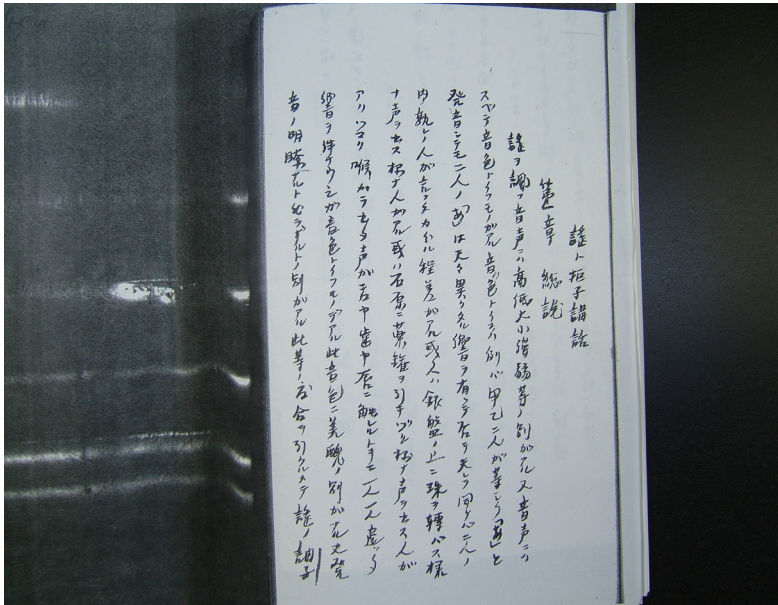


著者不明 『謡と拍子講話』

著者等、詳細不明。原本はガリ版刷の製本だったと憶える。「平ノリ、大ノリ」を使わず、「平地、ノリ地」という語を使う点で、昭和初期迄の成立と考えられる。興味深いのは、本書には、説明の後にそれぞれ練習問題が置かれている点である。写真下がそれである。「次ノ平地ノ文句ヲ拍子ニ合ハセテ謡フテ見ヨ」「次ノノリ地ノ文句ヲ拍子ニ合ハセテ謡フテ見ヨ」等。しかし、独習は困難であると思われる。先達の模範提示を前提としたものだろう。



標題 内題：謡と拍子講話

標題紙：—

奥附：—

その他：—

著者 奥附：—

その他の場所：—

出版 版次：—

出版地：—

出版社：—

出版年：—

その他の場所：—

形態 冊数：— 頁数：— 寸法：—

状態 写本版本の別：版本 現物複写の別：複写

備考 国立能楽堂蔵の本を一部分複写したもの。